

三六災害を知る災害足跡現地学習会 報告

● 実施概要

今年、三六災害の大惨事から50年の節目を迎える。この災害を風化させず、教訓として伝承していくためには、地元住民が水害・土砂災害に備えた地域づくりを目指していく必要がある。その一助として、先導役となる防災技術者向けの現地学習会を開催した。

記

● 主催・共催

【主催】飯田市／松川町／高森町／豊丘村／天竜川上流河川事務所／(社)中部建設協会

【共催】三六災害50年実行委員会

● 日時

3月7日(月) 9:00～16:00

● 集合場所

天竜川総合学習館「かわらんべ」(住所：〒399-2431 長野県飯田市川路7674)

● 講師

松島信幸先生

【プロフィール】

長野県内の小中学校で理科教師をつとめる。在職中より伊那谷各地の地質調査をおこない、伊那谷の地層や断層に精通。理学博士。伊那谷自然友の会常任委員。飯田市美術博物館顧問。高森町在住。

● 参加者

52名

実行委員会メンバーの防災担当者、三六災害を語る会、天竜川上流河川事務所職員

● 当日の様子

時間	場所	概要	様子
9:00 ～ 10:10	かわらんべ	事務局から本日の行程等の説明があり、その後松島先生による三六災害に関する座学が行われた。当日は雪のため、かわらんべにて三六災害を語る会の林隆生氏による川路地区での災害状況と災害復旧工事の状況について講話があった。	

10:20 ~ 10:40	川路地区 (飯田市)	雪のため、川路地区の説明は車内から行われた。三六災害時、浸水した旧川路小学校跡地や、浸水した正清寺跡地に残る石段などを見学した。	
10:50 ~ 11:00	松尾地区 (飯田市)	天竜川にかかる弁天橋付近にて、三六災害を語る会の林隆生氏より、災害の様子や復旧工事について講話があった。	
11:10 ~ 11:40	野底川 (飯田市)	雪のため、当初予定していたひつじ満水の時に土石流によって運ばれた夜泣き石をバスから見学した。その後、野底川上流の野底橋に移動し、災害当時この付近にあった金山製綿工場が土石流により流され、7人が亡くなった話を聞き、慰霊碑に手を合わせた。	
12:50 ~ 13:10	伴野地区 (豊丘村)	天竜川右岸の伴野地区にて、三六災害を語る会の岩下喜内氏より、当時の災害復旧について講話があった。また、対岸の高森町の被害状況について松島先生より講話があった。	
13:20 ~ 13:40	出砂原地区 (高森町)	市田駅付近に存在する、ひつじ満水の時に大島川の土石流により運ばれた夜泣き石を見学した。	

<p>13:50 ~ 14:20</p>	<p>田沢川 (高森町)</p>	<p>田沢川に架かる追分橋付近にて、災害当時、この地域で水防活動をしていた12人が土石流に流され11人が亡くなった話を聞いた。生き残った1名の方の被災状況についても話があり、参加者は慰霊碑に手を合わせた。</p>	
<p>14:50 ~ 15:10</p>	<p>生田地区 (松川町)</p>	<p>生田地区の下峠付近にある集落にて、災害当時に崩れた斜面と、それに呑み込まれた民家について講話があった。</p>	